

2025年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

Q: 通期の営業利益予想を300億円から260億円に引き下げたが、要因は何か？

A: これは主に欧州経済の影響を大きく受けた建築用ガラス事業によるものです。売上高の減少および収益性の低下が予想されるため営業利益予想を下方修正しました。

Q: 2025年3月期の通期営業利益予想を260億円としているが、上期が102億円であることを勘案すると下期は158億円と改善を見込んでいるようである。この改善は何によるものか？

A: フロート窯の停止を含めた様々なコスト削減効果が発現することや継続的な値上げの効果もあり、下期の収益性は上期と比較すると改善し営業利益も増加すると見えています。

Q: 太陽電池パネル用ガラスが堅調とのことだが、顧客のファーストソーラー社でのインド工場の不調の影響は受けなかったか？

A: インド工場は不調のようですが、他の工場での稼働率は向上しており、全体としては順調に推移しています。また、下期についても堅調が想定されており、さらに来年度からは当社の米国オハイオ州ロスフォードの新設備がフルで収益に貢献する見込みです。

Q: 米国の大統領選挙を受けて、将来的に太陽電池パネル用ガラスの売上高が落ち込むリスクやウクライナ停戦に伴う復興需要などはどのように見ているか？

A: 米国国内の産業保護政策が行われることが予想され、基本的にはファーストソーラー社ひいては当社にとって逆風とはならないと考えています。復興需要については、欧州全体の中長期的な需要も勘案し生産停止したフロート窯の再稼働については慎重に判断していきたいと思えます。

Q: 欧州の景況感が芳しくない状況が継続しているが、下期において建築用ガラス事業や自動車用ガラス事業で人件費や固定費の増加を販売価格に転嫁することはできそうか？

A: 建築用ガラス事業の販売価格については底が見えつつありますが予断を許さない状況であり、価格改善交渉は引き続き実施するもののそれほど大きな効果は期待できないと見えています。自動車用ガラス事業は従来から継続的に価格転嫁交渉を進めており、今後も継続していきます。

Q: 自動車用ガラス事業は2025年3月期第1四半期から第2四半期にかけて営業利益が減速しているが、第3四半期においてはある程度の回復が見込まれるか？

A: 上期は特に日本と北米において取引先での生産停止の影響を受けましたが、下期はこれらの影響が無くなり上期と比較し改善します。また、欧州は下期にかけて市況が徐々に回復していくことに加え、新規モデルの受注獲得もあり改善を見込んでいます。

Q: ペロブスカイト太陽電池に注目が集まっているが、これはビジネスチャンスになり得るか？日本ではフィルム型に注目が集まっているため、チャンスは限定的となるか？

A: 現状として日本ではフィルム型ペロブスカイトに注目が集まっていますが、グローバル全体では結晶シリコン太陽電池の代替として、ガラスを使用したペロブスカイトが主流となっています。これには当社のガラスとオンラインコーティング技術を活かすことができるため、より大きなビジネスチャンスとなると捉えています。